

JR東日本の将来を見据え、若い世代のために
組合員・社会から信頼される労働組合をめざし
全職場から労働組合を強化・拡大しよう！

2020年11月 7日発行

発行責任者 荻原 明禎

編集者 情宣部

2020年度年末手当交渉始まる！

11月4日、年末手当の第1回目の交渉が始まり、経営側からの現状認識と年末手当の基本的スタンスが示されました。

～会社業績～

「第2四半期決算」はコロナウイルスの影響を受け、過去最低となり、対前年では約50%減の5,409億円と大幅な赤字となった。

通期の業績予想では、営業収益が対前年8,100億円減の1兆2,510億円、営業利益では、対前年7,570億円減のマイナス4,630億円の大幅な赤字となる見込み。

～年末手当の基本的スタンス～

会社の持続的な発展こそが社員還元のさらなる充実、働き甲斐の向上、幸福の実現につながっていくという前提のもと、厳しい経営環境について認識を共有することが重要。

コスト削減に一層の努力が必要。また、7期連続の基本給改定、キャリア加算、各種手当の見直しの影響も考慮しながら総合的な判断が必要。高い公共性を有した企業であり、世の中の状況も留意する。

低額回答のムードを振り払い、満額回答を勝ち取ろう！